

りはしないか」と云ふやうな事を時々耳にするのであります。併しながら私共の如く長い間工業に従事して居ります経験から致しまして、滿洲國の産業の發展が日本の産業を壓迫すると云ふ事に決してならないと思ひます。滿洲國の産業が發展するに従つて日本の産業が發展し、日本の産業の發展に従つて滿洲國の産業が發展する。兩々相俟つて進む可きものと思ひます。

只その間不景氣、好景氣と云ふ事は多少關係があるかも知れませんが、將來の日本は今までの日本と違ひまして、滿洲國と云ふ大きな國を相手とし、支那と云ふ大きな國との關係が深くなりました以上、今までのやうに日本一國のみが不景氣になる心配がない。滿洲國、支那、日本と云ふやうに東亞全體が有無相通じて一丸となるのでありますから、滿洲國の産業の發展が日本の産業を壓迫すると云ふ事は絶対にないのであります。滿洲國の産業は日本の産業の枝葉をひいたものであり、又滿洲、支那、日本と云ふものは一つの強力なブロックとして進まなければならないと云ふ事を日本の皆様へ解つて戴きたいのであります。

斯う云ふ事をハッキリ解つて戴く爲には矢張り鐵鋼協會の方々のやうな、日本の有数の會社の事業に従事して居られますやうなお偉い方々にドンドン滿洲にお出でを願ひまして、色々御視察を賜るのが一番かと思ふのであります。而して「斯う云ふ事業は滿洲で起したらいい」、「斯う云ふ事はもつと教へてやらなければならない」と云ふ風に、色々御注意やら御指導御鞭撻やらを下さいまして益々滿洲國の工業界を御引立て下さいますやうお願い致す次第であります。

此の意味に於きまして、私共は鐵鋼協會の方々を工業の中心地たる奉天にお迎へする事を得ました事を、非常に欣ぶと共に裏心から歓迎の意を表したい心算で御座います。

扱本日は滿洲工廠、富士電氣會社、滿洲車輛會社、滿蒙毛織、住友金屬會社、鐵道總局、滿洲麥酒の7社が主になりまして日本鐵鋼協會の方々に歓迎の意を表したい、旁々種々お話を承つたり愉快に一夕を過して戴きたいと思つてお出でを願ひました次第で御座います。本日は市内の各工場を御視察下さいまして、御疲勞の所を多數御出席下さいました事は我々主催者側と致しまして洵に有難く厚く御禮申上げる次第であります。設備萬端非常に不行届膝でもあり、又席順等も心ならずも違つて居るやうな事がありはしないかと甚だ案じられる次第であります。時間も差迫つて居りお腹も空いて居ります事御座いますから早速ながら、不味い御馳走では御座いますが美味しく召上つて戴きたいと思つて居ります。どうぞ御寛りと時間の許す限り御歡談下さいませやうに……。愉快に今夕を御過し戴けましたら有難い仕合せで御座います。

終りに臨みまして來賓各位の御健勝を祝し、滞りなく滿洲の御視察を終へられました上は、御無事内地にお歸りになられますやうお祈り申し上げます。是れを以つて御挨拶と致します。(拍手)

謝 辭

日本鐵鋼協會々長 齋藤大吉君

只今は山本滿洲工業會々長より私共一行に對して極めて御鄭重なる歓迎の御言葉を戴き同時に又内地に歸りましてからの我々に對する御希望なども承りまして洵に有難く拜聴致した次第であります。又本日は私共一行御當地に參りまして滿洲工廠、富士電氣會社、滿洲麥酒會社、滿蒙毛織、滿鐵々道工場、滿洲車輛會社の6工場を詳しく拜見さして戴きましたが、洵に有益、且つ我々の参考に資す

る所が甚だ多かつたのであります。同時に最近の鐵西地區に於ける工業が斯くの如き發達を示して居やうとは私共今まで考へて居なかつたのであります。此の度は是れ等の御會社、御工場に參りまして、極めて短時間の間に斯くの如き設備をなし、而して盛んに操業をなされて居る有様を拜見するに及びまして、衷心より感嘆致し、其の御努力に對して非常な敬意を表した次第であります。

尙本日お晝は滿洲麥酒會社に於て只今申し上げました6會社の外に住友金屬工業會社を合せて7會社の極めて結構なる御馳走に預りました上に、又今夕は斯くの如き盛大なる歓迎の宴をお開き下さいまして、私共と致しましては洵に恐縮に存じますと共に又非常な光榮と存ずる次第であります。一同を代表致しまして私から厚く御禮申上げます。

尙本日は通俗講演會等が御座いましてこちらへ參上致しますのが甚だ遅くなりまして、御主人側の方々に對しては種々御迷惑をおかけしたかと思はれます。一言御詫びを申上げる次第であります。

最後に私共は杯を上げまして、今申しました7會社の御事業の將來益々御發展になられます事を祈りたいと思ひます。(拍手)

VI. 滿洲重工業開發株式會社の招待晚餐會狀況

(康德6年9月27日於新京)

歡迎之辭

滿洲重工業株式會社 總裁 工學士 鮎川義介君

「要旨」此度日本鐵鋼協會並滿洲冶金學會に於かれましては、奉天に於て聯合講演大會を御開催になりますに當り、内地よりも多數鐵鋼界の權威者が御參加になりまして、滿洲に於ける鐵鋼事業の實情を親しく見て頂くことが出來ましたことは私共同じ事業に携つて居るものと致しまして非常に嬉しく感じて居るものであります。實は私も本大會の實行委員長と云ふ大任を御引受け致して置き乍ら種種の都合に依り只名前を連ねたのみで、何の御手傳ひをも致しませず、甚だ申譯け無く思ふと同時に、深く御詫び申上げる次第であります。然るに齋藤會長以下各位に於かれては、非常に御忙しい日程を特に御割き下さいまして滿洲重工業開發株式會社の關係會社を多數御視察下さいましたことは私の非常に光榮と致します處であり茲に厚く御禮申上ます。

既に各地に於て御覽下さいましたことと存じますが、滿洲に於ける鐵礦資源と云ふものは實に豊富に存在して居り、先頃來滿された日滿共同資源調査團一行の調査に依りまして、豫想以上の大量が埋藏されて居ることが確認されたのであります。而して之等の鐵石は一般に所謂貧鐵であるとされ、其爲に埋藏量の多大にも拘らず、其價值が低い様な感じを與へてゐるのであります。外國の實例等より致ししても滿洲の鐵石は決してプーア・オアではなく、リーン・オアと稱すべきものであり、現に昭和製鋼所をはじめ各所に於てこのリーン・オアを使用し、御覽の通りの立派な成績を擧げて居るのであります。この點よりして滿洲の鐵鋼資源は單に量のみならず、質的にも決して悲觀すべきものではないのであります。斯く量的にも質的にも豊富なる資源を滿洲は蒙して居るのであります。之が開發には尙多大の機械設備、人的資源を必要とするのであります。其完備、補充には是非共日本側の絶大なる御協力を御願致さねばなりません。幸にも日本の鐵鋼界を代表される各位には充分現地の實情を御認識下さいましたことと存じます故、御歸